

# 京まち工房



WINTER  
情報交流誌

no.

# 25

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

## 第2回景観・まちづくりコンクール

（京都のまち新発見）

魅力と活力のあるまちづくりを目指して

第2回  
景観・まちづくりコンクール  
京都景観・まちづくり賞  
受賞作品集

平成15年12月

京都市  
(財)京都市景観・まちづくりセンター

京らしい都市景観の維持・向上に寄与する建造物や地域住民による景観形成やまちなみの維持・保全にかかわるまちづくりの取組事例などを募集した第2回景観・まちづくりコンクールの受賞作品が決定しました。

今回のコンクールは4年ぶりのもので、私たちが日常よく目にする建築物、緑地広場、土木工作物のほか、地域住民の主体的なまちづくり活動など総数82に及ぶ多数の応募がありました。

今まで気付かなかった自分たちの身近なまちの風景や地域まちづくり活動の様子を知るなど、これからの京都の景観やまちづくりを考える良い機会になりました。

また、約1ヶ月の間、当センターで応募作品の展示会を開催し、市民の方々から作品に関する意見を伺いましたが、展示作品を見に来られたグループの中で作品に対して活発な意見交換が行われるなど、これからの都市景観やまちづくりについて市民の方々が高い関心をもたれていることを感じました。

優れた都市景観の形成や活力のある地域づくりは、住民・企業・行政等様々な方々の連携と協働が必要であり、当センターにおいても、今後さらに、景観・まちづくり活動が一層促進されるよう様々な方々と連携を図っていきたいと考えています。

# 第2回

# 景観・まちづくりコンクール 京都景観・まちづくり賞 受賞作品

### ■作品募集

平成15年7月1日(火)～8月15日(金)

建築物部門	50点
緑地広場部門	4点
土木工作物部門	7点
屋外広告物部門	応募なし
すまいづくり部門	9点
景観・まちづくり活動部門	12点
応募総数	82点

## 京都市長賞



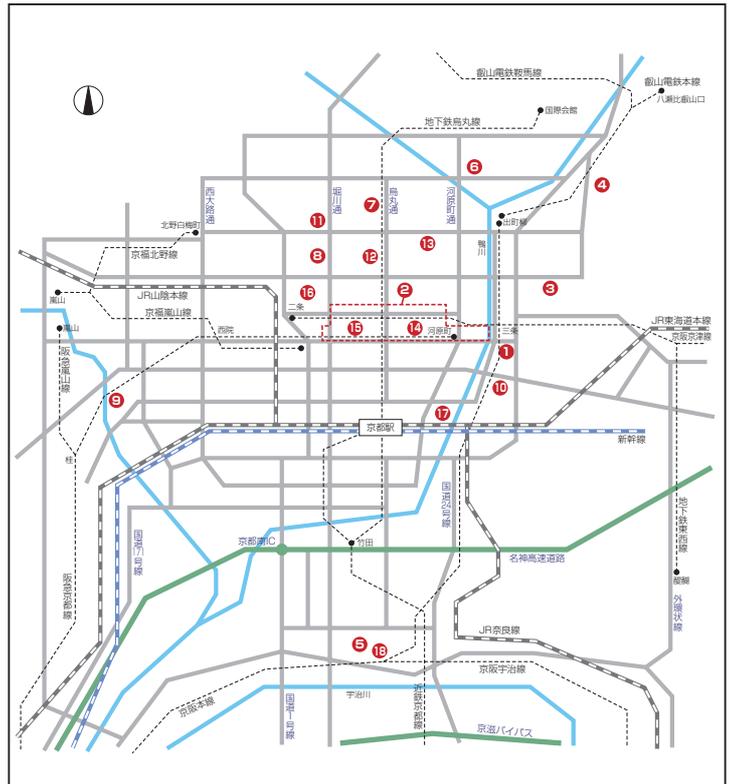
### ①花見小路景観整備

祇園町の中央を南北に貫く花見小路を「祇園情緒」の雰囲気伝える、京都を代表する町並みにふさわしい道路に再整備したものです。電線類地中化工事、石畳舗装、デザイン照明に再整備する道路景観整備事業を実施しました。



### ②歩いて暮らせるまちづくり推進会議

2000年から3年間、毎年11月中旬に「まちなかを歩く日」を開催しました。「歩く日」を通じ、学区の知恵と工夫を生かして、毎日が歩いて暮らせるようなまちなかを目指した取組です。



## 優秀賞

### ③京都府立図書館



岡崎の地に馴染んだ建物の外壁を保存して、それに調和するよう低層部は石張り、上層部は京都らしい「格子組み」のモチーフによる繊細でモダンなデザインとするなど、岡崎公園の豊かな緑と平安神宮の参道としての景観に調和した建物です。

### ④上終町京都造形芸術大前バス停休憩所「洗心」



白川通りと比叡山へつづく雲母坂の交差点に位置し、訪れる方に憩いを感じていただける公衆トイレを併設した休憩所です。伝統を受け継ぐ木造建築でありながら古さを感じさせないデザインです。

### ⑤横瓦積八角形煙突



旧高瀬川沿いにある高さ18m、直径2.2mの明治後期に建てられた八角形レンガ造りの煙突を修繕したもので、「酒どころ伏見」の歴史のシンボルとなっています。

### ⑥京都府立洛北高等学校



外壁開口部形状の援用、同窓会館正面レリーフの復元、円形記念柱の再生など、府立一中としての歴史と伝統を新校舎に引き継ぐために、クラシカルなファサードを再生した建物です。

■**応募作品の展示会** 平成15年9月17日(水)～10月15日(水)

午前10時～午後8時(日・祝日は、午後5時まで)

展示場所 「ひと・まち交流館 京都」(河原町五条下る東側)

1階展示コーナー及び京都市景観・まちづくりセンターワークショップルーム

審査委員会での議論を深めるため、市民の方々から応募作品についての意見を伺いました。

約600名の来場があり、総数135件の貴重なご意見をいただきました。

■**第1次審査委員会** 平成15年10月24日(金)

午後1時30分～午後5時

展示会における市民意見を参考にして、第2次審査委員会(現地視察を含む)における審査対象作品の選考を行いました。

■**第2次審査委員会** 平成15年10月30日(木)

午前9時～午後5時

第1次審査で選考された建築物部門・緑地広場部門・土木工作物部門の作品の現地視察を行い、全部門の優秀賞及び京都市長賞の選考を行いました。

■**表彰式及びシンポジウム** 平成15年12月14日(日)

午後2時～午後5時

開催場所 「ひと・まち交流館 京都」大会議室(2階)  
(河原町五条下る東側)

⑦**依屋吉富 龍宝館**



敷地の間口の狭さを利用した京都らしいアプロ一ちに、建物本体も日本瓦と格子を取り入れて、和風の持つ落ち着いたデザインを目指した建築物です。

⑧**かもがわ出版社屋**



銀いぶしの椽瓦、白漆喰で塗りこめられた虫籠窓、糸屋格子の入った出格子など、町家の意匠の復元により、周辺のまちなみ景観のランドマーク的な存在として地域の人々に愛され、次代に継承されていくことを目指した京町家の改修事例です。

⑨**京都アクアリーナ**



地球環境に配慮したスポーツ施設をコンセプトに、屋上緑化、太陽熱パネルの設置や壁面の大きな開口等、自然エネルギーの徹底活用を図りつつ、威圧的な壁面とならない工夫を凝らすなど、建物自体が公園となるよう京都らしさを現代的な形態に応用した地球環境建築です。

⑩**大仏殿跡緑地**



この場所は有名な方広寺大仏殿跡の一部であり、往時の様子を想像できるように整備された緑地です。「区民の誇りの木」に選ばれたケヤキの大木が、季節の移ろいと安らぎを感じさせ、都心部における貴重な緑の空間となっています。

⑪**桜井公園**



井戸から流れ出るせせらぎや季節ごとに花や実を楽しめる風景など、まちなかのオアシスとして、子どもからお年寄りまで、地域の人の憩いや交流の場所となっています。

⑫**澤井醤油本店**



伝統的な「店の間」の持つ雰囲気や「中庭」を再現して京町家の風情を復元するとともに、蔵の外観の再生を図り、昔ながらの景観を創出しようとする改修事例です。

⑬**(有)トータルサービスヘイアン 平安看護婦・家政婦紹介所&玉置邸**



大正11年創業の看護婦・家政婦紹介所などを営む事務所と住まいを併設した職住混在の間取りであった店舗併用住宅を、上下階に完全に分離するとともに、京町家特有の風情や居住環境の改善を目指して改修した事例です。

⑭**四条通沿道における地区計画策定**



「風格と華やぎ」のある「京都を代表する商店街」として、「伝統と革新の調和する個性豊かな商店」の立地を誘導し、「良質な環境と景観」を有する都心空間形成を目指して、四条通沿道において、地区計画策定等の地域主導のまちづくりを展開しています。

⑮**本能まちづくり委員会**



住みたいまち、育てたいまち、働きたいまち本能を目指して、地区計画基本計画の作成や「おいでやす染のまち本能」を実施するなど、地域住民の主体的なまちづくり活動を展開しています。

⑯**京都市立中京中学校 (押小路ふれあい花壇<中京中PTS活動>)**



うるおいのある学校づくりを目指した押小路通の歩道での大花壇作りの取組です。花壇は地域の大きな話題になり、中学生と地域の方々、地域の方々同士のふれあいが深まりました。

⑰**崇仁小学校におけるピオトープづくり**



高瀬川のワンドや小川、池、畑などのピオトープの整備に、小学校児童とまちづくり組織がワークショップ方式で取り組み、子供たちや地域の人たちが参加して完成させました。

⑱**伏見夢みなとまちづくり会議の活動**

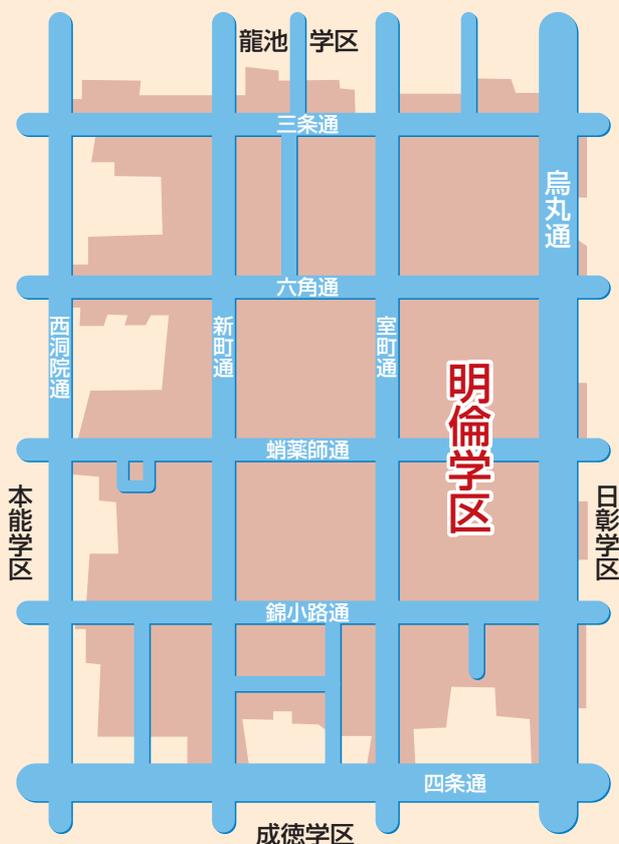


中書島駅前界隈、南浜学区における地元主体のまちづくり活動を支援しようと、中心市街地活性化や街区まちづくり活動の交流支援の機会を演出し、伏見TMO(夢工房)と連携した生活環境づくりに取り組んでいます。

## あなたのまちづくり拝見

# 明倫まちづくり委員会

住民主体のまちづくりを様々な視点から紹介するコーナー。  
今回は、自分たちの地域の歴史や文化を生かしたまちづくりに取り組むとともに、マンションの住民の方々など新しい地域住民との交流を図られている「明倫まちづくり委員会」を紹介します。



## 「鉾」のまちとして

明倫学区は、中京区の中心に位置し、東西は烏丸通と西洞院通、南北は三条通と四条通に囲まれた市の中心部にあります。

日本三大祭りのひとつ祇園祭の山鉾町が多くあり、新町通を中心に祭りの日にはすべての鉾が、昔ながらに町家の家並みのなかを巡行する姿が見られるなど京都風情があり、歴史的、文化的に貴重な価値を有する伝統と歴史のまちです。

## 「明倫まちづくり委員会」

明倫学区は、室町の伝統産業である繊維業を中心に職住共存の地区として発展してきましたが、平成のバブル期以降を境にマンションが増え始めるようになりました。

その後も、日本経済が直面する産業の構造不況により、室町の繊維業が衰退し、撤退した店舗が空地やマンションに変わるなど、まちの様子も様変わりしました。増加するマンション問題は、地域の景観やまちづくりを考える新たな転換期を迎えることになりました。

この時期に今後のまちなみや地域づくりを考える有志のメンバーが「明倫まちづくり委員会」を立ち上げ、現在は自治連合会の組織として様々な活動を行っています。

## 自分たちのまちを知る

「自分たちのまちはどんなまち？」今後のまちづくりを考える上で、もっと自分たちの住むまちのことに知ろうと、地域の方々や地域のことに関心のある学生さんなどが参加し3つのグループに分かれて、平成15年6月「第1回明倫まち歩き」が開催されました。

まちの風景の移り変わりや日常生活で気付かなかったまちの様子など新たな発見もあったとのことでした。



第1回明倫まち歩き

また、今後のまちづくりのために地域の昔のことを知ろうと、学区にお住まいの方々に、地域にまつわる祭事の由来などのお話を伺う「明倫夜話の座」が定期的開催されています。祇園祭と学区の関係など古くからお住まいの方でも知らない学区に関する様々な興味深い内容になっており、マンションにお住まいの方々から地域の



明倫夜話の座

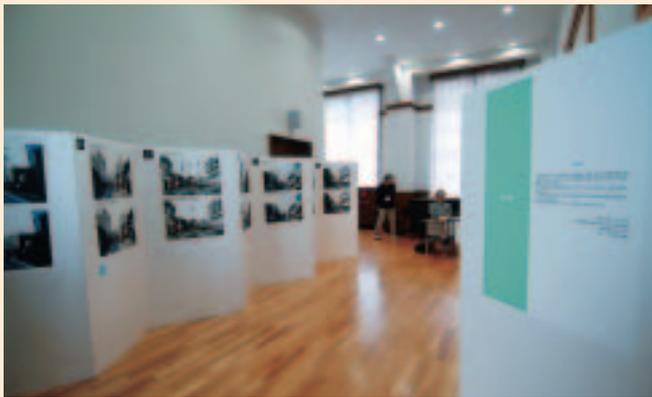
幅広い世代の方々まで多数参加され地域の交流の場にもなっているとのことでした。

### 銚の道プロジェクト

明倫まちづくり委員会では、今後のまちづくりを進める上で、まず何か地域を代表する象徴的なものを考えてはどうかという思いから、1つのプロジェクトが提案されました。

明倫学区の特徴として、山銚町があるなど祇園祭との関係が挙げられますが、その中でも学区の中を通る新町通は、山銚巡行に際し、すべての銚が巡行するなど、祇園祭との関係も深く、その沿道景観への配慮から、沿道の建造物に対してのデザインの検討が進められています。

現在、大学生と連携し、沿道景観のシミュレーションを行うなど、通り景観に統一性を持たせるデザインの検討を始めています。



まちなかを歩く日 (銚の道シミュレーション展示)

### 他の地域との交流

明倫学区をはじめとする中京区内の9学区の取組として、平成12年から毎年行われている「まちなかを歩く日」<sup>(注1)</sup>に参加し、他の地域との連携を図るとともに学区内で様々な催しものを開催し、地域情報の発信など多彩な活動が今年も行われました。



まちなかを歩く日 (イベント風景)

「茶会」や「明倫コ



まちなかを歩く日 (茶会)



まちなかを歩く日 (明倫コンサート)

ンサート」などを通じた地域住民同士の交流や、市内の中心部で同じような課題を抱える団体との連携は、他の地域の先進的な取組を知ることができるなど今後のまちづくりの励みになっているとのことでした。

### 自分たちがつくる自分たちのまちを目指して

今後の取組について明倫まちづくり委員会の委員長の井上成哉さんにお話を伺ったところ、「今後は、地域でのまちづくりのルールといえる地区計画の策定を目指していきたい」とのことでした。委員会の発足後、地域における課題の把握や、地域にお住まいの方々の交流促進ということを主眼に活動が行われてきましたが、今後は地域にお住まいの方々が、自分たちのまちの将来像について具体的な方向性を示せる段階に進んでいきたいということでした。まだ、地域住民で取り組んでいかなければならない課題は多くありますが、祇園祭との関係が深いなど歴史や伝統のあるまちであり、これらを大切にしつつ、新たに「明倫はこんなところ」という個性や特徴が出せるまちづくりを考えていきたいとのことでした。

マンションに居住されている方々との交流など、学区内の幅広い住民同士の関係を大切に、住民主体のまちづくりを積極的に進める「明倫まちづくり委員会」の姿に感心しました。

一歩一歩着実にまちづくりを進める「明倫まちづくり委員会」の今後の活躍が大いに期待されます。



明倫まちづくり委員会  
委員長 井上成哉さん

(注1) これは、学区・地域が地域資源を活かしたイベントを同時に開催するもので、都心の回遊性と地域交流を活性化し、暮らしの安心と安全を高める都心の未来像を共有することを目指しています。

お知恵拝借～

## 「東垂水地区まちづくり推進会」

東垂水地区は、兵庫県神戸市の西部、垂水区にあります。海岸に向かった緩やかな傾斜により明石海峡大橋や淡路島が見える、眺望の素晴らしい地域です。現在も下町情緒が残る反面、坂や狭い道が多く、車両の進入が困難で、防災上の不安もあります。

そんな東垂水地区で「安心して安全なまちづくり」をテーマに活動を行っている「東垂水地区まちづくり推進会」会長坂本榮一さんにお話を伺いました。



東垂水の眺望

### 東垂水地区 まちづくり推進会の活動

「東垂水地区まちづくり推進会」の設立は平成5年、今年で10周年となっています。

「みんなに活動を浸透させるということにどうしても時間がかかる。話をしても活動を理解してもらいにくいという面があります。『推進会』というものはどんなものか分かってもうらうようにしたいということで、『わがまちウォーク』というまちあるきイベントを年2回、春秋と行うようになり、今年の秋で10回になります」と坂本さん。

最初は会の役員のみで「わがまちウォーク」を開始し、この東垂水地区の改善すべき場所を発見・調査していました。しかし、もっといろんな人にこの活動に参加してほしいということで、4回目以降から幅広く参加を呼びかけるようになりました。



「わがまちウォーク」の様子

### 活動から階段整備へ

地区整備などでは、細街路整備を目的にまちづくりが行われるのが少ないのですが、この「推進会」は、まちづくり活動のなかで細街路の整備活動が派生した珍しい例といえます。「わがまちウォーク」を通じて位置づけられた整備すべき道路のなかから、道の所有者の協力が得られたものを改修することになりました。

「ここを整備しよう」と考えると、この東

垂水地区ではネックになるのは地主さんの協力。私道がほとんどのこの地区では、地主の承諾がないとなかなか道を触ることができない。あちこちで頑張っ、ようやくできたのが『見晴らし階段』です」



公募して名付けられた「見晴らし階段」



整備前

「でき上がったものを見たら、みんな『いい物ができたな』と思ってくれる。でもそこにいくまで、どんなことがあったのかということはあまり知られていません。携わってきた人の反応はよく聞くのですが…。東垂水のなかでもそれだけの温度差があるのをどうすればいいかというのが課題です」

ビジョンを持っていても、自分たちだけではなかなか前に進みません。幸い、「見晴らし階段」の完成後、自治会など他団体の協力もあり、地区の西側に新しく2つ目の階段整備が実現されることになりました。「山手ふれあい階段」です。



「山手ふれあい階段」の計画づくりワークショップの風景

「この完成によって西側の人も『推進

会』に対する意識ができてくるのでは、と思っています。」

### まちづくりは人づくり

坂本さんは、まちづくりにはいろんな人との関係が大切だと言います。

「われわれだけの力は大きしたことないです。たくさんの人に知恵を貸していただかないと何もできない。それが分かっただけでも成長したのかなと思っています」

長期的な活動目標のためにも、若い人の参加を望んでいますが、なかなか参加者は集まりません。

「できるだけ多くの人にきてもらって、私たちのまちがどういのかを再認識してもらって、そこからまちづくりに関する新しいニーズが出てきたら大きな前進ですね」



会長の坂本榮一さん

### 東垂水のまちづくり

「1つずつ、根気よくというのが今の段階だと僕は思っています」と会長の坂本さん。

「とにかく努力しないと人間は前に進まない。努力することにはやぶさかじゃないし、会合に来てくれている人は、皆どうしたらよくなるだろうかという気持ちをその人なりにいつも持って臨んでいる。僕もそうでありたいと望んでいるし、実際そうですね」

まちづくり活動をしていくなかで、困難な問題にぶつかることもあるでしょう。不可能なのではと感じるときもあるでしょう。「続けていくことで、何か良くなっていくものがあるならば」という想いが大切なのではと、坂本さんのお話から感じました。

## 京町家の保全・再生の事例

# ～地域のお年寄りが 元気に暮らせるために～

### vif【びふ】(上京区)

「vif」とはフランス語で「生き生きとした」「活発な」ということを意味する言葉です。vif【びふ】のオーナーである青山さんは、10年間空家の状態にあり、傾いていて危険な状態になっていた京町家を介護用品や高齢者の生活支援用品を売る店舗、そして高齢者の交流の場として改修・再生されました。

店舗は、地域の高齢者の自立した生活の支援のために、高齢者が前向きに暮らしを楽しむための商品やサービスの提供、そして地域の高齢者のための「コミュニティ・スペース」の提供を基本コンセプトにされています。また、高齢者のための京町家のバリアフリー改修の事例として、町家全体をショールームとしても見てもらえるような工夫もされています。随所に高齢者の自立を促進・補助するための改修(手すり・段差解消・滑りにくい床面等)を行い、一方で一部バリアフリーでない部分も残し、福祉用具の活用例も提示するようにされています。

この京町家は、昭和3年頃に建てられ、10年前に空家になってからは家が傾く等、傷みがひどくなっていました。京町家の保全・再生についてのセミナーや見学会などにも参加されましたが、具体的にどのように直したらいいのか、そもそもこの家が直るのかわからなかったそうです。そんな中、4年ほど前に、青山さんはお父さんの介護をきっかけに介護福祉士の資格を取られ、福祉の現場で仕事をされるようになりました。介護福祉の仕事を通じて、古い京町家に住んでいる方々と多く接するなかで、皆さん自宅の京町家が好きで住み続けたいと思っておられることを知ったそうです。そしてこれからの高齢化社会では在宅介護の必要性が増えると思われ、福祉住環境コーディネーター2級

の資格を取られました。介護の現場での経験、そしてこの資格取得を通じて、京町家と介護・福祉というキー

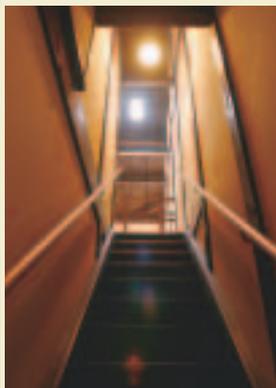


ワードが繋がったとのこと。京町家で高齢者が快適に暮らせるように、在宅介護ができるように、高齢者の生活をサポートするような京町家に改修したいというアイデアが生まれました。

改修は、平成14年の8月頃から始められました。家の傾きが大きかったため、ジャッキアップをして基礎をやり直し、柱も多くが新しいものに替えられました。また屋根の傷みも大きかったため、全面葺き替えになりました。階段もバリアフリーのために傾斜を緩くし、位置を変えて段数も増やされました。また2階は屋根裏の大きな梁を見せ、白い壁と合わせて開放感のある空間にされました。1階の店の間を土間にして福祉・介護用具の販売店舗とするとともに、2階はギャラリーとしても使える交流スペースになりました。

vif【びふ】は、平成15年4月下旬にオープンしましたが、それに先がけて、平成15年4月26日に行われた内覧会には、150名近くの方が訪れたそうです。その後も多くの方が見学に訪れ、最近では徐々に店舗のお客さんも増え、近所の方だけでなく、遠方から来られる方もおられるとのこと。また、2階の交流スペースを使った催しも徐々に増えてきています。月2回の定例のお茶会、そして押花教室も始められました。また10月にはお年寄りを囲んでの交流会が催され、学生さんや近所に住む若い世代の方も参加されて、多様な世代が集うにぎやかな会になりました。この交流会は今後定例で開催しようということになり、地域のお年寄りが主役になる場として、お年よりは若い世代の方からエネルギーをもらい、また若い世代の方はお年寄りの智恵や経験を学ぶ場としていきたいとのことでした。

vif【びふ】は、お年寄りのための交流サロンを目指してスタートしましたが、現在では、多様な世代が交流する、地域のコミュニケーションの場となりつつあります。青山さんは「家が人を呼んでくるという部分もあると思う。」とおっしゃっていました。お話を聞いて、京町家の魅力は世代をこえて共有される、とても懐の深いものではないかと改めて感じました。機会があればぜひ一度お訪ねになってください。



住 所：京都市上京区御前通西裏上の下立売上る西入る北町580-5  
営業時間：11:00～17:00  
定休日：日曜・祝日

## 景観・まちづくりシンポジウム

# 「わたしたちがつくるまち ～参加から一歩前へ～」 を開催しました



住民参加型のまちづくりは全国各地で展開され、京都においても各地域で実践されています。住民参加型のまちづくりが盛んになるにつれて、現在では住民参加から住民主体のまちづくりへ、そしてまちづくりのなかでの公共性とは何か、という問題提起もなされています。当センターでは、住民参加のまちづくり活動に多数かかわっておられるパネリストをお迎えし、全国各地の事例を通じて、取組のなかで生じたトラブルをエネルギーに変える醍醐味や、多様な主体が担う新しい公共のあり方をお話いただき、市民の方に住民主体のまちづくりへの意欲を醸成していただくことを目的として、平成15年9月20日に景観・まちづくりシンポジウム「わたしたちがつくるまち～参加から一歩前へ～」を開催しました。シンポジウムは、第1部を基調講演とパネルディスカッション、第2部を講師の方々との意見交換会の2部構成で実施しました。

第1部には、約160名の方が参加されました。まず延藤安弘氏(NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事)、林泰義氏(NPO法人玉川まちづくりハウス運営委員)に基調講演を行っていただきました。延藤氏からは、千葉県四街道市の公共施設を住民参加で作りに上げていくプロセスや、名古屋市における「まちの縁側育くみ隊」での実践についてご紹介いただきました。多様な人々がまちづくりのプロセスを通じて共振し、



第2部 意見交換会

創造的な協働の主体へと変化していくということを示していただきました。また、林氏からは新潟県岩船郡での地域の力を解放していく「元気づくり支援事業」の事例を通して、新しい公共とは、タテの関係ではなくヨコの関係で形成していくものであり、新しい公共の実現のためには、「社会資源」をいかに「社会資本」として地域に活用していくかが重要であるというお話をいただきました。

続いて、基調講演の2人に加えて吉田鐵也氏(京都大学大学院農学研究科講師)をパネラーに、そして谷口知弘氏(立命館大学経営学部助教授)をコーディネーターにお迎えしたパネルディスカッションを行いました。吉田氏からは京都市における地域コミュニティ広場の整備事例を紹介していただきました。会場からは、「コミュニティビジネスについて」「新しい公共について」「ワークショップ・参加のノウハウについて」の大きく3つに関する意見・質問が出されました。それらの意見・質問を踏まえて、新しい公共をになうためには、各主体それぞれが持っているものを提供しあうこと、そして市場経済だけでなく地域コミュニティの活動も含めた社会的経済を確立していく必要性が議論されました。そして、新しい公共をつくるまちづくりのプロセスには、市民や行政、その他多くの人でコンセプトを共有し、たくさんの人を巻き込む大きな物語を作っていくことが重要であるということが確認されました。

第2部では、延藤氏・林氏にコーディネーターをお願いし、「セカンドステージのまちづくり～次なる時代へのキーワードを探す」と題して第1部での議論をさらに深める意見交換が行われました。約70名の方が参加され、参加者それぞれが自分の関わってきたまちづくりの体験、そしてこれから関わるまちづくりについての疑問や質問、思いや悩みをポストイットで出し合い、それに対してコーディネーターからコメントをいただくという形で進められました。「まちづくりの成果をどう測定するのか」、「行政の支援は支援という名の介入ではないか」、そして「NPOのタテ割りをどう乗り越えるか」などといった突っ込んだ議論がなされました。このような熱のこもった議論のなかで、2人の先生方が具体的に関わられた事例での体験談なども話して頂き、非常に充実した意見交換ができました。意見交換を通じて、住民参加のまちづくりは、やはり確実に次の段階へと進んできている、ということを実感しました。これからの住民参加、住民主体のまちづくりには、社会システムそのものを作り変えていくというダイナミックな視点が必要であり、またその可能性を秘めているのだということを感じました。

### プログラム

日時：平成15年9月20日(土)  
午後2時～5時(第1部) 午後5時半～午後7時(第2部)  
場所：「ひと・まち交流館 京都」  
2階大会議室(第1部)、地下1階ワークショップルーム(第2部)

#### 第1部：(1) 基調講演

『実例を通してみた新しい「参加」～意味のデザイン～』

延藤安弘氏(NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事)

『現場から見えてきた新しい公共性』

林泰義氏(NPO法人玉川まちづくりハウス運営委員)

#### (2) パネルディスカッション

パネラー：延藤氏、林氏、吉田鐵也氏(京都大学大学院農学研究科)

コーディネーター：谷口知弘氏(立命館大学経営学部助教授)

#### 第2部：意見交換会

『セカンドステージのまちづくり～次なる時代へのキーワードを探す』

コーディネーター：延藤氏、林氏

参加者：第1部 約160名、第2部 約70名

## 『まちづくり交流』

# 伏見夢みなとまちづくり会議

さまざまな立場の人を巻き込みながら伏見のまちづくりについて考えるスタイルで約5年にわたり活動している「伏見夢みなとまちづくり会議」の活動をご紹介します。

宇治川の水上市運輸と宿場で栄え、京都の玄関口として重要な役割を果たした伏見。なかでも中書島周辺は三十石船の往来や遊郭など、にぎわいもひとときわだったそうです。

伏見夢みなとまちづくり会議は、中書島駅前界隈における地元主体のまちづくり活動の支援を行うことを目的に平成10年9月に発足したものです。駅前ひろばや道路の整備を緊急課題としながら、将来ビジョンについての意見交換、界隈活性化の基盤となる「まち、ひと再発見」のための諸活動を目標に掲げました。地元商店街役員、関連商店街、地元企業、学識経験者、行政、まちづくり支援NPOメンバーなどの参加で、月1回のペースで会議を60回以上開催してきました。



花文字

お話を伺った伏見夢みなとまちづくり会議世話人の新谷浩和さんによると、平成11年から開催している「夢みなとまつり」では、中書島繁栄会を中心として様々な催しが行われているそうです。平成12年は京阪電車の特急が停車するのを記念して、約4,800株の花で花文字を作ったり、和太鼓の演奏や南浜小学校の弁天囃子など、駅前広場を利用して催しが行われました。他の年も大学応援団のパレード、和太鼓演奏、御香宮の花傘巡行や、三栖神社の神獅子がまちをめぐったりと、地域の方の協力を得ながら楽しいまつりとなっています。

伏見夢みなとまちづくり会議は周辺地区のまちづくり関連組織との緩やかな連携も行っています。平成13年9月に伏見の中心部を対象に中心市街地活性化基本計画が策定され、TMO（まちづくり運営機関）として「株式会社伏見夢工房」が誕生しました。このエリアには大手



三栖神社の神獅子

筋、納屋町、風呂屋町、龍馬通り、油掛、柳町、中書島と合わせて7つの商店街があります。今年夏には、「7商店街合同夏の夜市」が開かれました。中書島駅から伏見桃山駅まで商店街沿いに夜店が並び、大勢のお客さんにぎわったそうです。

駅前の道路整備が終わり、放置自転車対策の駐輪場建設も来年実施されるそうで、ハード面での課題は、地域の方、行政の方など各方面の協力で解決に向けて動いてきました。まちづくりに携わる様々な人との協力が、実を結んだといえるでしょう。「夢工房」との連携も期待されています。これらの取組により、本ニュースレターの1～3ページでご紹介しました第2回景観・まちづくりコンクールにおいて、優秀賞を受賞されました。今後も、中書島駅前界隈、南浜学区、そして伏見中心市街地が、活力に満ちて魅力的な生活環境となるように活動していきたいとのことです。



御香宮の花傘巡行

## ニュービジネスの動向

このコーナーは、新しく立ち上がった、もしくは企画段階にある新発想のビジネスの動向についてのインタビューによる紹介です。

# 「京都の30歳！」

NPO ワーカーズ・オープンコミュニティ・エイド

次代を担う30歳を中心とした「働く人」に、「元気」「活力」「のびやかさ」を取り戻していただくキッカケを提供することを目的として、雑誌「京都の30歳！」の発行やコミュニティサイト「京都の30歳！」の運営、交流会、イベント等の活動を進められています。

今回は、NPO ワーカーズ・オープンコミュニティ・エイド代表発起人の宮崎健さんにお話を伺いました。



代表発起人 宮崎健さん

### この団体を立ち上げられたキッカケは？

自分自身の経験からです。35歳ぐらいから家庭・組織・地域での役割は増える中、土日もなく働いている自分はなんだろうと思ひ始め、何のために働いているのか見えなくなりました。その当時、出世するに従い組織を動かす立場を求められる中、どうしても現場の生の声と離れた仕事が肌に合わないと感じ、また本来の目標である、幸せな家庭を築くという根っこの部分を大切にしたいと考え始めました。

会社は38歳でフレックス定年制度がありました。35歳で会社でも自分自身にも変化があり、独立することを考え始めました。この時期に主体的に生きていくためには辞めるという決断をすることが大切だと思ひ、早期退職に踏み切ったわけです。その辞めると決めた瞬間に、この30歳の働く人たちの情報という構想がすぐ出てきたのです。

この団体の立上げの構想は3つあ

ります。1つ目は「自分自身が30歳の時に将来に関してしっかり考えていなかったのが、現在の30代にメッセージを送りたい。」2つ目は「偉大な人のサクセス・ストーリーは多いが、組織で働く普通の人の物語が全くない中、他の人たちが何を考え働いているのかが得られるような情報を提供したい。」3つ目は「5年ほど前から職場のコミュニケーションが少なくなってきている中、何かを始めようとするための情報を得られる場の必要性を感じ、コミュニケーションのキッカケになるようなものを作りたい。」という構想から始まりました。

### オープンコミュニティとは？

自分らしい生き方を発見し、将来の自分の生活を維持していくためには、自分の所属している社会や業界等の枠を飛び越え、「働く事」について自由にコミュニケーションできる場が必要です。我々はこのようなコミュニケーションの中で生の情報を得て、活力を持って自分の働き方を決断できるオープンコミュニティづくりを目指しています。

具体的な交流の場として、京都商工会議所と共催で若手のビジネスマンの交流・意見交換会や、前回までの雑誌で取り上げた人々を紹介して話をする場としての「京都の30歳！」読者交流会等を企画しています。

### ビジネスの展開の方向は？

まずは協賛企業を増やすことで



す。現在、年間20万円の協賛を9社にお願いしています。雑誌を一回発行するのに約150万円かかるため、協賛企業を増やしていかないとまかなっていけないのが現状です。

また最近、大手企業を中心に社内コミュニケーションを復活させようという動きが出てきています。昔は階層別研修がありましたが、現在は個人の能力と結果で給料が決まるようになったため必要なくなったわけです。しかし私たちの事業に興味を持たれ、企業内部で行ってほしいという声が出てきています。このような事業の展開も生まれているので、その資金を雑誌に投入できればいいと思っています。

### 将来の展望

現在は立上げ時期のため、私が核になって土台づくりを行っています。3年ぐらい後には、それぞれ集まった人たちが新しいものを持ち寄って事業を進めていくような団体になってほしいと思っています。またいろいろな形のコミュニケーションを推進していきたいです。そのコミュニケーションによるネットワークで、自然と取材対象者が決まっていくような形が理想ですね。

※雑誌「京都の30歳！」創刊2号は、コンビニや書店で発売されています。  
<http://www.kyoto30.com/>

## 私と京都



京・町家文化館副館長  
高島恵美子

### 京町家に生まれ育って

60センチ、60分。この数字は上京区にあるうちの町家に見学に来られる方との距離、そして私に与えられた時間です。雑誌、インターネットの普及により、町家を訪ねて来られる方は北は北海道から南は鹿児島まで、津々浦々。アジア、欧米など海外からの見学者も多くなりました。その数は1年半近くで2,000人を超えました。

国内外の観光旅行をする際に、地元の人と話し、ましてや住んでいる家に案内されることは、知人でもい

ない限り実現しないことです。60分の話のなかに町家の現状、町家での暮らし、新しい建築様式と比較した町家の造り、町家が抱える課題などを盛り込みます。狭いくぐり戸から入り、冷たいコンクリートとは感触を異にする「たたき」を通して、靴脱ぎ石のところで履物を脱ぎ、高い段差を上がる…。暑い夏のさなかにもクーラーに頼らず、紅殻格子・部屋と平行して玄関から裏まで続く「通り庭」・床下などから循環してくる風の通り道を体感していただきます。

何度も補修を重ねながらも家を支える柱や梁、壁など細部にいたるまで、そこに使われているのは自然界から得られた素材だけ。そのような素材には合成塗料ではなく、紅殻・柿渋・漆など自然なものが一番しっくりと合い、有害な物質に悩まされることもありません。時代遅れのよ様な暮らしのなかに、実は現代人が失ってしまったことさえ忘れている、捨てたものではない落し物が潜んでいるような気がしてなりません。たった60分の間に「眠っていた五感がいつのまにか呼び戻された」と言ってくくださる方があります。

外から見える部分だけではなく、構造上や生活面など内側からの町家を紹介するのが、油屋に生まれた私の潤滑油としての役目。一期一会の出会いのなかで「ほっこり」できる場が提供できたことに喜びを感じるひとときです。しかし同時にこれからの景観まちづくりに危惧を抱かざるを得ません。

「ぜひ、町家を残すように頑張ってくださいね」と言い残して帰る、遠方から来られた方が多いこと。平成10年の時点の調査で28,000軒の町家が京都市内に存在しているという結果が出ました。レストランやアトリエ等に再生された事例もありますが、その数は着実に減少しています。個々の町家が存続できない理由はさまざまですが、日本の、京都の観光資源としても価値があると認識されている以上、活かさない手はありません。個人のレベルから視野を広げて取り組むNPOからの働きかけにも賛同する人が増えてきています。歴史的な遺産価値を今後どのような形で保全し、新たな取り組みの中で位置づけていくか、自治体はもとより、国政レベルでの方向を誤らない、積極的な取組が早急に望まれます。

## この春、まちづくり活動が再び集まります!! 第2回 京都まちづくり交流博

平成14年2月に行われた「第1回京都まちづくり交流博」は、67団体のパネル発信と3つの分科会により、まちづくりの多様性や京都に受け継がれている豊かな資源を示すとともに、京都のまちづくりの活力と可能性を探るものでした。

今回は、活動されている皆さん同士の『交流』に重点を置きます!! それぞれの抱えている課題・情報を持ち寄り、話し合うことで、自分たちの活動を見直したり、新たな解決法を発見したりと、今後の活動に役立つ場として期待されます。

企画については、前回の交流博参加者やまちづくりフレンズなど有志の方々が検討してきました。

引き続き、皆様からの提案も受け付けていますので、ご意見がありましたら事務局までお寄せください。

#### 【交流期間】

2004年2月23日(月)～3月7日(日)

#### 【内 容】

##### ◆パネル展示〈2月23日(月)～3月7日(日)〉

A1サイズのパネルでまちづくり活動の情報を発信。

##### ◆お知らせデスク〈3月6日(土)、7日(日)〉

パネルの説明、活動内容の紹介を自由な手法で行います。

##### ◆まちづくり屋台〈3月7日(日)〉10:00～16:30

さらに深い交流を演出するために、考えられたのが「まちづくり屋台」。いくつかのテーマで屋台を設け、それぞれに店主(ホスト役)が付いています。屋台では店主や客(来場者)がテーマに沿って自由に意見を述べ質問し、話し合いを進めます。テーマ案は「子どもとまちづくり」「まちの居場所づくり」「手づくり観光とまちづくり」(詳細タイトルは検討中)などです。

##### ◆ステージ発表〈3月7日(日)〉10:00～17:00

来場者に向けての活動の紹介などをステージで発表。楽しいパフォーマンスも織り交ぜます。

#### 【お問い合わせ】

(財)京都市景観・まちづくりセンター  
担当 湯浅・佐藤 (075-354-8701)  
募集要項はホームページをご覧ください。

# センター語録

新センターに移り、半年が過ぎました。「ひと・まち交流館 京都」にある京都市景観・まちづくりセンターもそろそろ皆さんに親しんでいただけただかと思えます。5月から当センターで働いておりますが、半年を振り返りますと、いきなりの引越し、オープニングのイベント、新センターでの新たな取組と、慌しく、いつしか紅葉の季節も過ぎてしまったという感じです。本来、地域のまちづくり活動をお手伝いしていくセンターですから、季節の移り変わりを感ぜずに月日を経ってしまったということは、あまり、地域に出向けていなかったということかなと反省しています。半年の中で驚いたことも多くあります。先ほど「地域のまちづくり活動をお手伝いする」といい

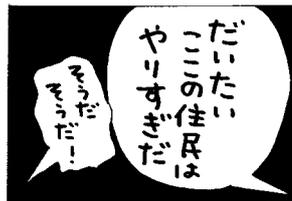
ましたが、皆さんほんとうに様々な活動をあたりまえのようになさっています。実際、地域でのお話を聞くと、様々な取組をなさるなかで問題にぶつかり、解決に向けて試行錯誤なさっているといったところです。そこで、「センターに相談しよう！」と思っただけにならないように感じております。

京都ならではの底冷えがする季節となりますが、私たちもどんどん皆さんの地域へ出向きます。皆さんもどんどんセンターにお越しいただきたいと思えます。「センターに行ったら何かがある」と皆さんから噂されるように頑張りたいと思えます。お待ちしております。

(景観・まちづくりセンター事務局 H・F)

## 京まちコーポ no.10

なな・さん



## センターからのお知らせ

### 京都市景観・まちづくりセンターホームページ

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp>

センターの取組内容をはじめ、まちづくりに関する様々な情報を発信するホームページ。

皆さんの地域のイベント情報、まちづくり情報も掲載します。メールマガジンの登録も受付中です。



## センター活動の新拠点のご案内

### 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1 (河原町五条下る東側)

「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701

FAX 075-354-8704

e-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp

#### ●開館日 (相談の受付等)

9:00 ~ 21:30 (月曜日~土曜日)

9:00 ~ 17:00 (日曜日・祝日)

#### ●休館日

毎月第3火曜日 (国民の祝日にあたるときは翌日)

年末年始 (12月29日~1月4日)

なお、センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



### 賛助会員の募集 (平成15年度分)

平成15年度の賛助会員を募集しています。

京都のまちづくりに貢献したい! センターの活動を応援したい! そんなあなたの熱意をお待ちしています。

#### 【特典】

- ・ニュースレター (年4回・季刊) の送付
- ・冊子等センター発行物の割引
- ・ニュースレターでの活動紹介
- ・シンポジウム、セミナー等への優待

#### 【年会費】

個人1口: 5千円 団体1口: 5万円

### まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくりに関する各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。